

令和7年度第3回岩手県公共事業評価専門委員会

現地調査資料

■ 日 時

令和7年8月7日（木）13：00～14：00

■ 調査開始時刻及び調査対象事業

調査開始時刻	調査対象事業
13：00	地域連携道路整備事業（ネットワーク形成型）一般国道340号 和井内～押角（宮古市）

■ 資料一覧

資料 No. 1 現地調査行程表

資料 No. 2 現地調査地区位置図及び説明資料

参考資料 令和7年度第2回岩手県公共事業評価専門委員会の審議概要

岩手県公共事業評価専門委員会委員名簿(五十音順)

氏 名	職	専門分野	備 考
石 川 奈 緒	岩手大学理工学部 准教授	土木環境	副専門委員長
伊 藤 幸 男	岩手大学農学部 教授	林政学	
清 水 真 弘	清水真弘事務所 公認会計士・税理士	企業会計	
谷 本 真 佑	岩手大学理工学部 准教授	交通工学	欠席
松 林 由里子	岩手大学理工学部 助教	海岸工学 水工学	欠席
武 藤 由 子	岩手大学農学部 准教授	農業土木	専門委員長

(敬称略)

令和7年度第3回岩手県公共事業評価専門委員会 現地調査行程

○開催日: 令和7年8月7日(木)

○対象事業

地域連携道路整備事業(ネットワーク形成型) 一般国道340号 和井内～押角(宮古市)

○行程

		0:05				0:50				0:05	
始		移動時間 0:10	着	10:10	移動時間 1:05	着	11:20	移動時間 0:30	着	12:40	
県庁			盛岡駅			宮古市			傍聴者集合場所		
正面玄関前			西口バスターミナル付近			昼食			旧JR岩泉線 岩手和井内駅		
出発						お食事処 うちさわ					
発	10:00		発	10:15		発	12:10		発	12:45	

移動時間 0:15	移動時間 1:45	移動時間 0:10	着	1:00 13:00	着	15:45	着	16:00
			宮古市		盛岡駅		県庁	
			現地調査		西口バスターミナル付近		正面玄関前	
			和井内～押角				帰庁	
			発	14:00	発	15:50	発	

※休憩含む
(道の駅
やまびこ館)

◎時間は現時点での目安であり、交通状況等により変更になる場合があります。

令和7年度第3回岩手県公共事業評価専門委員会現地調査地区 位置図



公共事業再評価

〔第3回専門委員会現地調査資料〕

地域連携道路整備事業（ネットワーク形成型）
一般国道340号 和井内～押角

令和7年8月7日
県土整備部 道路建設課

● 国道340号の整備状況(宮古市～岩泉町)

○「事業中」及び「未事業」個所図

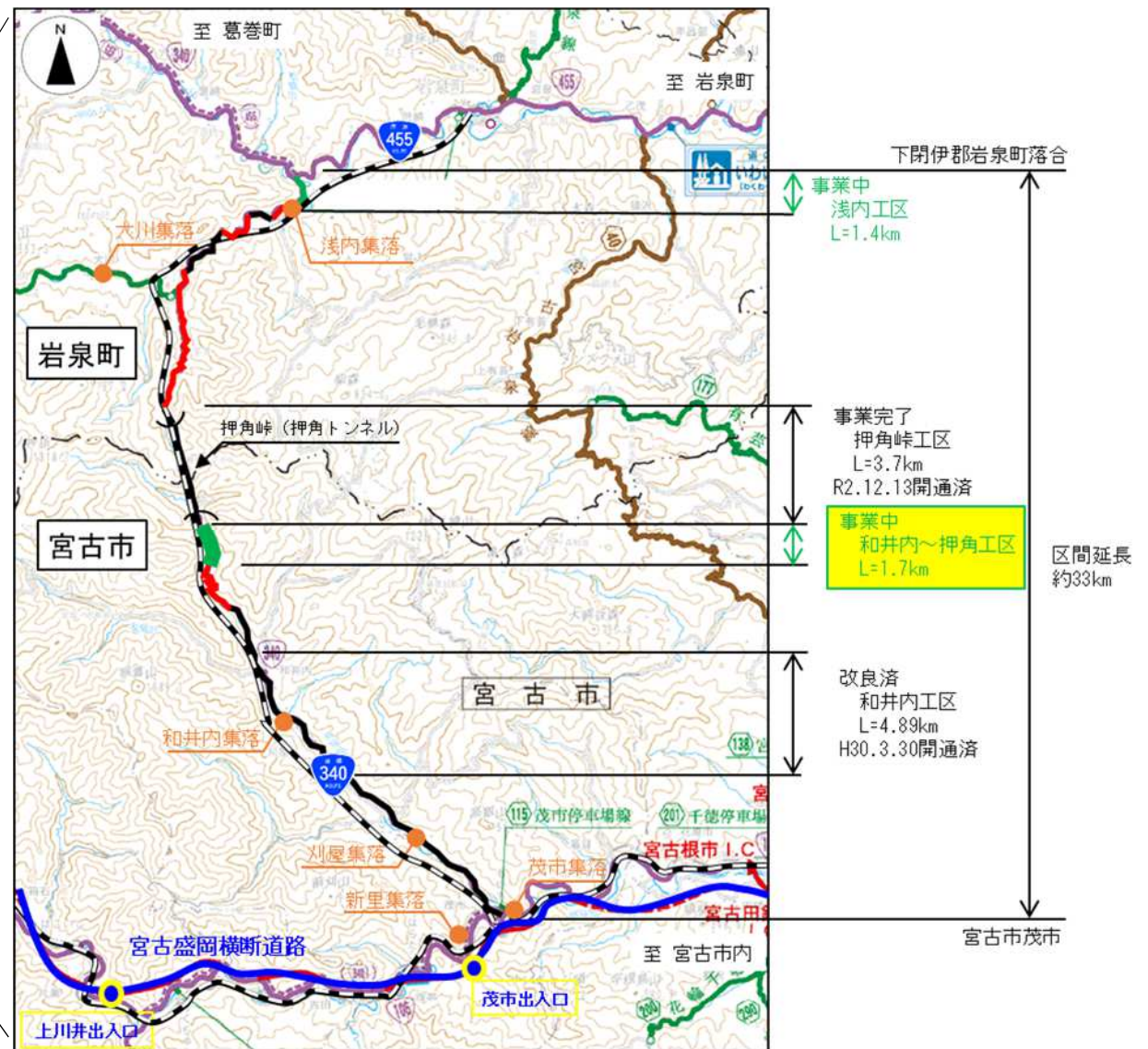
区間延長（宮古市茂市～下閉伊郡岩泉町落合）

	全体	宮古市	岩泉町
区間延長	約33km	約19.2km	約13.9km
改良済	約20km	約15.2km	約4.9km
事業中	約3.1km	約1.7km	約1.4km
未事業	約9.9km	約2.3km	約7.6km



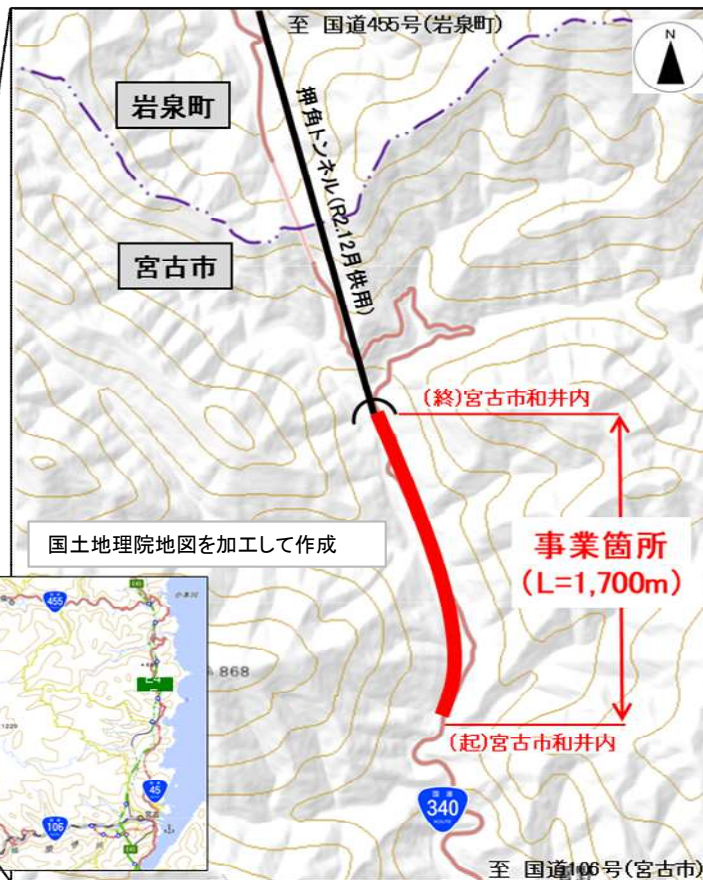
【凡例】

改良済
 事業中
 未事業



地域連携道路整備事業(ネットワーク形成型) (国)340号 和井内～押角 実施状況図

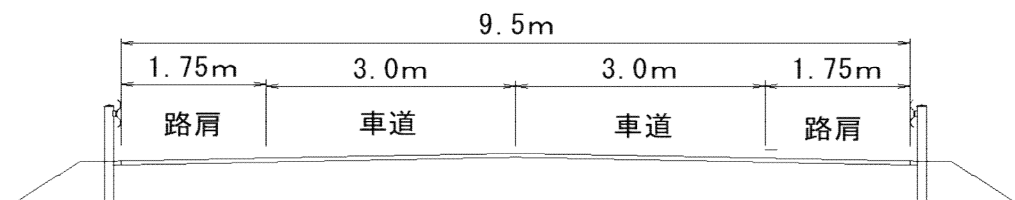
位置図

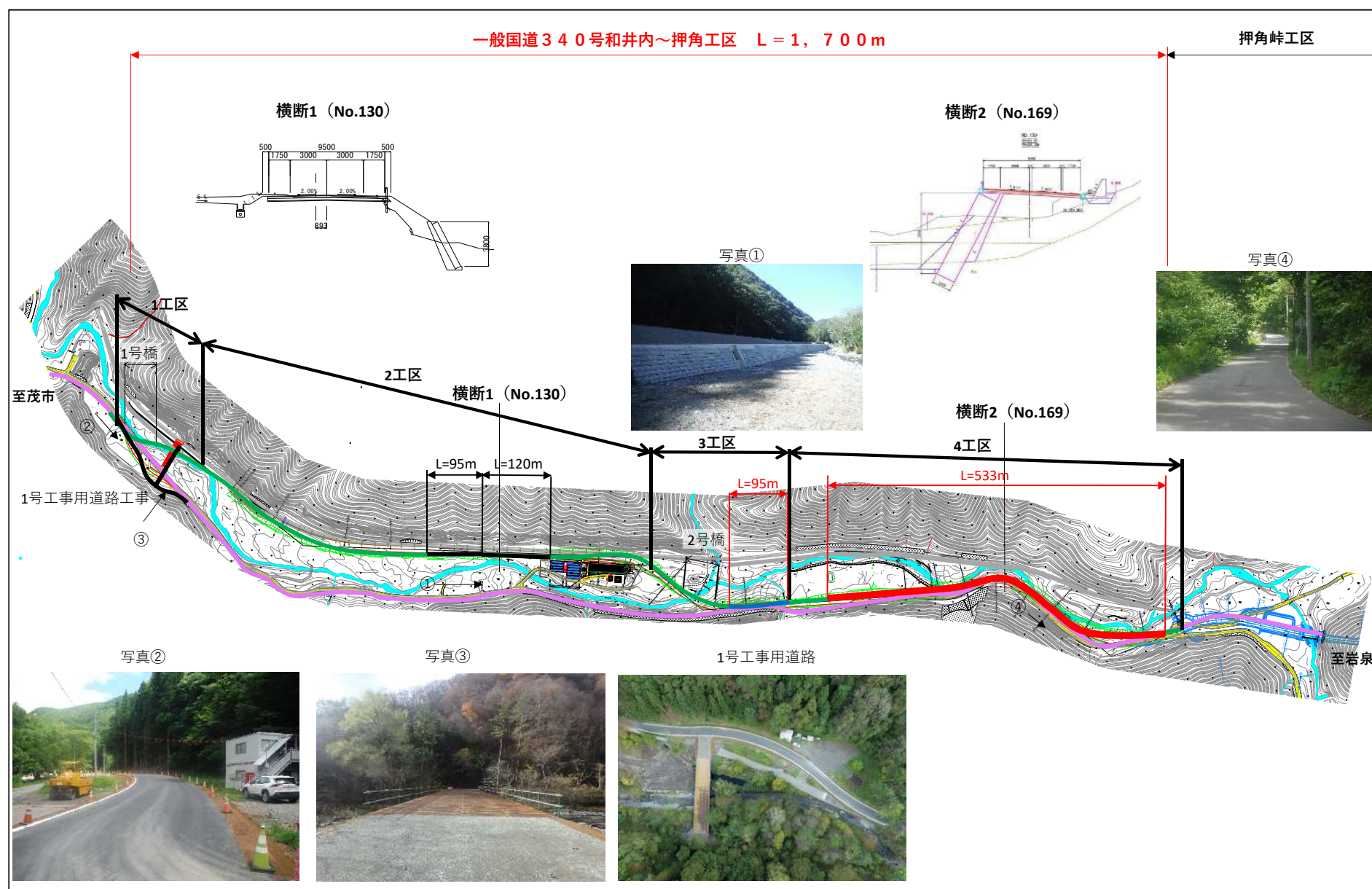


平面図



標準断面図





令和7年度第2回岩手県公共事業評価専門委員会の審議概要

1 経営体育成基盤整備事業 小猪岡（一関市）

質疑等の概要		
	専門委員からの質疑等	事業担当課等の対応（回答）
①	第1回専門委員会 稲作のための水源は河川か。十分な水が確保でき、水田に適した場所か。	【農村建設課】 取水源は主に 15 箇所 of 河川と 3 箇所 of ため池である。取水源の箇所ごとに用水ブロックを設置し、必要な水量を取水している。
②	第1回専門委員会 今後整備した後に、水の不足により稲作がうまくいかないということはないか。	【農村建設課】 パイプラインで給水をする方式を取っているが、順番を守って配水、給水していただくようお願いしており、そのようなことはないと考えている。
③	第1回専門委員会 平面図を確認すると編入除外要望が多く見られるが、具体的にはどのような要望が来ているのか。また、編入や除外は、希望があれば農家の意向に沿って対応するような形で進めているのか。	【農村建設課】 編入は、田んぼの区画形状の改善で要望する方が多く、除外は、自分で遠慮するという翻意というか、心変わりの方が多。ここの地区ではないが、相続の関係により決まらない土地を除外するケースもある。編入や除外はできる範囲で対応をしている。
④	第1回専門委員会 除外がかなり多いが、希望通りに聞いていくと考えていた事業が成り立たないこともあるのではないかと。どのように農家とやり取りをしているのか。	【農村建設課】 編入除外を全て希望通りとしているわけではない。編入する方は受け入れ、除外する方は極力説得によって調整することを基本としている。
⑤	第1回専門委員会 P10 の評価指標の推移を見ると、着手時と評価時点での再評価項目が変わっているものがあり、トータルでは全体 100 のうち合計で 11 ポイント下がっている。必要性の前回、今回とも配点が 15 のところで今回 15 点のうち 7.5 点になったり、重要性の配点が 10 点のところ今回 2 点になったりしたのは、評価の変わり目のところのせい、理由を伺いたい。	【農村建設課】 評価指標の変化が一番大きい理由である。例えば、米の主産地度と水田の生産性というものがある。今までは生産することをメインに指標を作っていたが、平成 30 年度から米だけではなく転作による野菜や大豆などの生産性も加味するようになったという変化がある。
⑥	第1回専門委員会 全体点数が全体で 100 あるうち 1 つの項目、新しい項目については半分になって全体の数値が下がっている。時代に合わせて指標が変わっていると思うが、その中で満点ではなく半分ということは、その時代に求められているものに対応できているかという観点では評価が全体的に下がっていないか。	【農村建設課】 指標の変更後は、米以外の生産性、収量の増大といった観点が強く打ち出されてきており、そういったことを加味した評価指標の変更である。
⑦	第1回専門委員会 米以外のものを作っていないと点数が下がるような評価の仕方になるのか。	【農村建設課】 この評価指標は、基本的には地区ではなく該当する市町村になるため、必ずしもこの地区 100% という話ではないが、傾向としてはそういうことになる。

質疑等の概要		
専門委員からの質疑等		事業担当課等の対応（回答）
⑧	第1回専門委員会 〔清田関連〕 P11 の便益項目のところで、農業の持続的な発展に関する効果の耕作放棄防止効果が、事業着手時（H27）の1百万円から今回38百万円に増加した理由を次回説明してほしい。 また、便益項目のその他効果である国産農産物安定供給効果について、小猪岡は事業着手時（H27）から今回で減少しているが、清田では増加しており、同事業でも違いがある。それぞれの理由についても次回説明してほしい。	【農村建設課】第2回専門委員会にて説明 耕作放棄防止効果の総効果額の増加は、再評価時に多面的機能に係る効果（景観の保全、生物多様性の保全、伝統文化の保全等）が追加されたことによるものである。 国産農産物安定供給効果について、小猪岡は、編入除外に伴う地区面積が減ったことにより、作付面積が減り、総便益額も減少となった。清田は、地区の担い手の営農方針が飼料用米の増産から、主食用米を中心とした計画に転換することとしたため、これに伴い単価の高い主食用米が増産され、増加粗収益額に係る効果額が増加することとなった。
⑨	第2回専門委員会 耕作放棄防止効果の多面的機能に、新しく3つの効果が追加されたということだが、この地区ではその3点すべての効果が追加されたのか。	【農村建設課】 多面的機能が発揮され続ける効果は、国民にアンケートを取ってCVMの効果で算定しており、54万4,000円を耕作放棄面積に乗じて算出している。項目ごとの詳細は把握できていない。
⑩	第2回専門委員会 耕作放棄面積の算出方法は。	【農村建設課】 まず、耕作放棄の発生率を推計する。高齢化率（65歳以上の割合）、担い手への集積面積率、後継ぎ率の係数から算定しており、0.23%と出ている。そこに、整備前の農地面積をかけて放棄面積を算出している。
⑪	第2回専門委員会 〔清田関連〕 収益額が変わっている要因の一つとして単価が変わっているということだが、単価はどのくらいの頻度で更新されているものなのか。	【農村建設課】 毎年更新されている。単価は、過去5年間の平均を使用している。
⑫	第2回専門委員会 飼料米の増産から主食用米の増産を中心とする営農方針への変更は、いつ頃把握したのか。	【農村建設課】 令和5年度に最終的に計画されたものである。
⑬	第2回専門委員会 耕作放棄防止効果が新たな算定方法となったが、今回再評価時の3,800万円の内訳は。	【農村建設課】 作物生産量から算定した効果額が切り上げて100万円、国民が多面的機能保全のために負担してもよいと感じる金額から算定した効果額が3,700万円である。
⑭	第2回専門委員会 小猪岡では再評価時に主食用米が減り、清田では増えている。地区の判断や時代の状況にもよると思うが、地区ごとに異なるのはよくあることなのか。	【農村建設課】 今は、水稻だけをずっと作付する地区は少なく、様々なものに取り組んでいる地区が多い。取り組み方は地区の考え方による。

2 林道整備事業 畑福線（葛巻町）

質疑等の概要		
専門委員からの質疑等		事業担当課等の対応（回答）
①	第1回専門委員会 融雪による法面崩落がたびたび起きたということだが、同じ場所なのか、それとも複数個所だったのか。	【森林保全課】 事業概要図の下の方に、緑の線で長く直線部分があると思うが、このあたりで法面崩壊等が起こったため、それらを片付けないと先に行けないというような部分があり、時間がかかった。
②	第1回専門委員会 工期の長期化により単年度にかけられる事業費は限定されると考えられるが、1年間に投資できる事業費はどのくらいか。	【森林保全課】 路線の中で大体3工区起こして、1工区 7000万円～8000万円の予算で進めていく。
③	第1回専門委員会 工事期間が長期化していること、また、崩落によって工期が遅延しており、その改善がなされるかということについて次回説明してほしい。	【森林保全課】 第2回専門委員会にて説明 新工区を設定し、複数工区体制による発注計画の見直しを行う。既設道路から近い箇所で行うことや補正予算等の活用により、効率的に工事を進めていく。
④	第2回専門委員会 鉄鋼スラグ路盤工によるコスト縮減額はどのくらいか。	【森林保全課】 実施する路線によって異なるが、従来の路盤補強工に比べて3割程度になり、工法も簡単になるのは大きいと考える。
⑤	第2回専門委員会 従来の路盤補強工から鉄鋼スラグ路盤工に変えることによって生じるデメリットはあるか。	【森林保全課】 鉄鋼スラグ路盤工の施工例はまだ少ないが、現在やっていて不具合は確認されていない。
⑥	第2回専門委員会 積雪状況を見ると、かなり積雪が多く、通年工事ができるわけではないと思うが、1年のうち工事期間はどのくらいか。	【森林保全課】 積雪により 12月下旬から3月中旬までは現場に行くことが厳しいため、それ以外の期間で実施している。
⑦	第2回専門委員会 新工区を作ることは効率が上がっていいと思うが、単年度の事業費が増加するのではないか。	【森林保全課】 工区を起こせば事業費がかかってくるのはそのとおりだが、他の路線と調整しながら、優先的に予算を回して事業を進めていきたい。
⑧	第2回専門委員会 融雪等による法面崩落の原状復旧にかかる費用も事業費に含まれるのか。また、積雪が多いことから他の工区でも同様のことが発生する恐れがあると思うが、その場合の費用についてどのように考えているか。	【森林保全課】 状況がひどい場合は補修工事の費用として計上するが、今回の法面崩落は小規模だったため通常の維持業務の範囲内で対応している。

3 地域連携道路整備事業（ネットワーク形成型） 一般国道 340 号 和井内～押角（宮古市）

[現地調査対象地区]

質疑等の概要	
専門委員からの質疑等	事業担当課等の対応（回答）
① 第 1 回専門委員会 橋梁形式の見直しとはどのような変更か。	【道路建設課】 この地区の道路線形は曲線になっている。当初は、曲線橋の場合に通常採用する箱桁橋を予定していたが、事業化後に再検討した結果、2 主鈑桁橋という合成桁橋がコスト縮減になることが分かり、橋種を変更した。
② 第 1 回専門委員会 事業区間内の構造物等の調査設計等に時間を要したのはなぜか。	【道路建設課】 道拡幅区間で、一部法面掘削が発生する区間のボーリング調査をしたところ、切土をすると地すべりを誘発するような地形が確認された。その部分を切らないために、道路の縦断計画を上げる計画に変更したため、川側にある大型ブロックの施工量が多くなったことが主な要因である。
③ 第 1 回専門委員会 事業費を上げている要因は、工事費の増加が大きいのか。	【道路建設課】 そのとおり。大型ブロックの施工量の増加で 5 億円、物価高等による増加で 2 億 7000 万円、工事費全体で 7 億 7000 万円ほど増加している。
④ 第 1 回専門委員会 事業着手時の B/C が 0.7 であり、そもそも高くはないが、事業を行うと判断したのはなぜか。	【道路建設課】 国道 340 号は緊急輸送道路であること、廃線となった JR 岩泉線の代替路線であることから重要な路線である。また、毎年、整備促進住民総決起大会が開催され、約 700 人の地元の方々が路線の整備について必要性を訴えており、地域からの整備要望の声が大きいためである。
⑤ 第 1 回専門委員会 今回、B/C が 0.3 とかなり低くなっていることから、事業を継続する理由と事業費が増えた理由について次回説明してほしい。	【道路建設課】 第 2 回専門委員会にて説明 国道 340 号は、廃線となった旧 JR 岩泉線の代替路線であり、緊急輸送道路や重要物流の代替・補完路に指定されるなど重要性の高い路線である。また、国道 340 号整備促進期成同盟会や国道 340 号宮古岩泉間整備促進期成同盟会などの団体要望、政党要望、市町村要望など、地域からの整備要望の声が多いことから事業の継続を判断した。 事業費の増額については、当初計画の切土では地形変形によって地すべりを助長するリスクがあったため、法面掘削が発生しない高さまで路面高を上げる縦断計画に見直したことによるものである。
⑥ 第 2 回専門委員会 国道 45 号の迂回路として機能していることを挙げていただいたが、国道 455 号の盛岡から岩洞湖を通り岩泉を経由して小本まで行く道路が、例えば岩洞湖周辺で大雨等で通行止めになった場合、盛岡からの迂回路にもなると考えられるが、どのように考えているか。	【道路建設課】 ご指摘のとおり。岩泉町の方々が盛岡に行く手段とすれば 455 号のほかに 340 号を使って 106 号に出る、または三陸沿岸道路を通して一度宮古に出てから 106 号で行くというルートがあるが、340 号の沿線に近い住民の方々はやはり 340 号を迂回していると考えられる。

質疑等の概要	
専門委員からの質疑等	事業担当課等の対応（回答）
⑦ 第2回専門委員会 高速道路へのアクセスが向上することもあるが、そのようなことを評価できる指標はあるか。	【道路建設課】 自動車専用道路の茂市出入口へのアクセスのしやすさの評価については、評価指標の重要性の項目（ネットワークの位置付け）で加点して評価している。
⑧ 第2回専門委員会 道路全体の中の一部を評価すると効果が低く算定されてしまうが、茂市から落合まで完成した場合の効果はどう見込んでいるか。	【道路建設課】 まだ未改良区間が多いことや事業費がどのくらいかかるか算定できていないことから、全体としての評価はしていないが、林業支援、観光支援、県立宮古病院への救急アクセスへの効果があると考えている。評価指標では、産業振興、生活支援で加点をしている。
⑨ 第2回専門委員会 地すべりが発生しないように法面を掘削しないのはわかるが、路面高を 2.0m 上げるのはかなり大がかりな変更だと思う。これ以外の方法は検討できるものなのか。	【道路建設課】 前後区間において、当初から大型ブロック積工を想定して計画しており、同じ工法で上げることを考えている。別なタイプの擁壁等もあるが、川沿いのためL型擁壁を厚くしなければならないなど、費用が大きくなると考えられることから、当初計画の大型ブロック積工を維持し、高さを変更する計画とした。
⑩ 第2回専門委員会 林業に携わっている方は、合板工場にはできるだけ大きいトラックで出したいという思いがあり、20 トンクラスのトラックが出せるかどうかは採算性に響いてくると考える。また、106 号沿いの川井村には林業事業者があり、多くの木材収集やバイオマス発電所への燃料材の搬出もあるため、この路線は林業的には重要性が高いと思う。	

4 総合流域防災事業（河川） 一級河川北上川水系広瀬川 向田（奥州市）

質疑等の概要	
専門委員からの質疑等	事業担当課等の対応（回答）
① 第1回専門委員会 上流で整備が進み、水が流れやすくなったから下流側の水位が上がりやすくなって浸水被害が増えるのではないかなと思うが、下流側への水位の変化の影響範囲や規模について教えてほしい。	【河川課】 計画段階から改良後の下流への浸水の影響や流下能力の負荷が生じないように計画している。下流側から改修が進んでおり、口内川合流後の下流では、上流よりも広い改修断面にしているため下流側の水位が上がりやすいということはない。
② 第1回専門委員会 河川事業全体に共通するが、便益項目の被害額の便益において、農地の被害の重要性が高まったことで数値が大きく変化しているようだが、詳細について次回説明してほしい。	【河川課】第2回専門委員会にて説明 治水経済調査マニュアル（案）の改定内容について資料で説明。

質疑等の概要		
専門委員からの質疑等		事業担当課等の対応（回答）
③	第2回専門委員会 一般資産被害額の算定方法には、被害を受ける地域の人口がかかわるのか、面積がかかわるのか。	【河川課】 人口ではなく、対象となる面積における水害統計の被害額を積み上げて算出している。
④	第2回専門委員会 流量配分図について、宗匠橋のところで510m ³ /s だったものが北上川に入るまでに570m ³ /s に増えているが、途中の 60m ³ /s 分は支川が入ってくるのか。	【河川課】 そのとおりである。
⑤	第2回専門委員会 流量配分図の流量は、平水時のものか、降雨量が多くなった最大時のものか。	【河川課】 洪水時である。計画している河川断面で流下できる最大の流量を表している。
⑥	第2回専門委員会 平水時は大体どのくらいの流量か。	【河川課】 事業区間の平水時の流量に関するデータはないが、事業区間の下流において、国が観測している岩瀬橋地点（広瀬川）の計画流量 570m ³ /s に対して、平水流量(※)は2 m ³ /s 程度となっている。 (※)平水流量とは、川で観測した 365 日分の流量データを大きい順に並べた際に、185 番目となる流量をいう。